
TATEYAMA

NOTAM

‘96-Vol.2

Hummingbird P.G.C Communication Note.



“我等ノってる三人衆！！”（イってるという噂も?!）

◆特集◆第2回トミーズカップ開催！！

関連記事 大和会長、大会について語る“競技には競技の飛びを！！”

大会関係者に聞いた「第2回トミーズカップ」

◆小野寺久憲氏の講演会開催！！

◆らいちょうバレーカップ第2戦、グリーンカップ開催！

◆会員探訪 寺内 真英

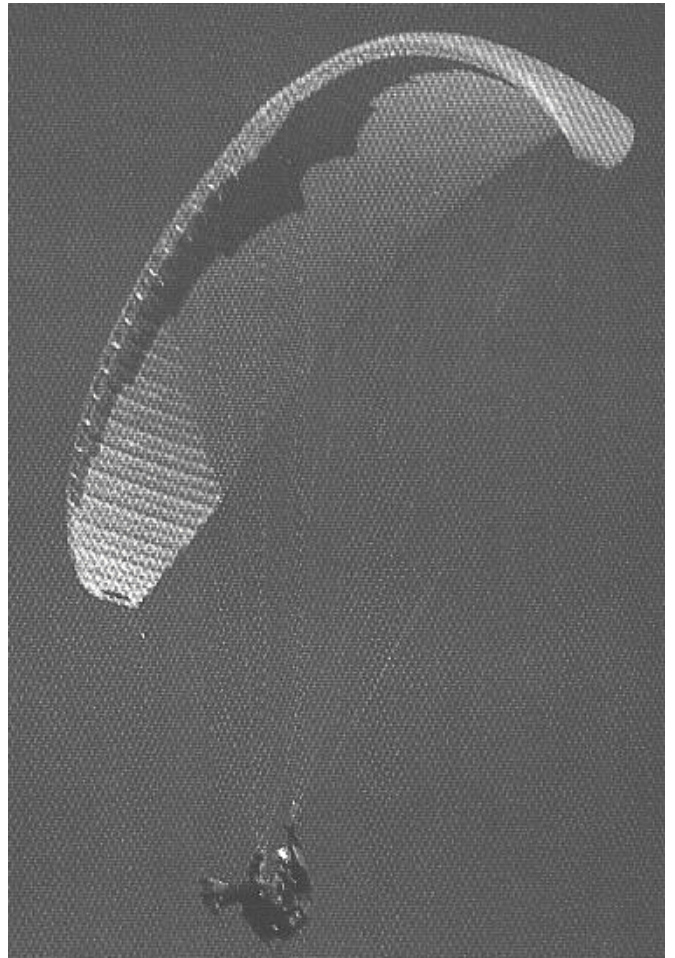
◆Team-Cの大会日記 ◆Information

◆小野寺氏の講演会開催される！！

らいちょうバレーカップ第2戦が開催されていた8月2日～4日、ちょうどポイント戦に参戦中の小野寺久憲氏による講演会がJMB立山パラグライダースクール、富山県フライヤー連盟の主催により、8月3日、山野スポーツセンターにて開催された。

講演内容は、最近のパラグライダーではもはや常識になりつつある「ハイアスペクトウイングについて」。最近ではアスペクト比が4程度は珍しくはなく、中には6というものまである。この高性能機を文字どおり自分の翼とするための技術や理論を我々のようなサンデーフライヤーにもわかるようにグラフや絵を使って丁寧に説明。パラワールド等でも活躍されている小野寺氏であるから、当日は参加選手をはじめとして多くのフライヤーが山野スポーツセンターを訪れた。

講演途中でも活発な質疑応答が行われ、参加者達は明日からの自分のフライトに役立てようと真剣なまなざしで聞き入っていた。



ハイアスペクト化の進む昨今の高性能機

◆らいちょうバレーカップ第2戦、グリーンカップ開催！

8月2日～4日（グリーンカップは8月3日～4日）、らいちょうバレーカップ第2戦、並行して一般フライヤー対象のグリーンカップが開催、文字どおり夏の炎天下の中で熱い戦いを繰り広げた。大会初日の8月2日は朝から快晴の絶好の大会日和と思われたが、突然の海風前線？！の襲来によりたちまち雲底が下がり敢えなくキャンセルとなってしまった。翌日からはまずまずの天候に恵まれ、ナショナル選手、一般選手共に素晴らしい戦いを繰り広げた。ここ数年の立山の夏のコンディションは非常に素晴らしかったが、今年は例年の夏のコンディションというのか雲底が低くサーマルもあまりパツとしない状況であったが、2日間とも無事に競技が開催出来たのは喜ばしいことだろう。

競技の方は、2日目のナショナルは渋い条件ながらも50 Kmのゴールレース。10時10分ゲートオープンという早めのスタートにもかかわらず、選手は一斉に極楽坂をあとにする。しばらくの間金山周辺でステイした後ファーストパイロンである4番へ向かって走り始めた。しかし、時間が早くまだ条件が十分に整っていない3番付近にはしっかりとしたサーマルがなく、多くの選手が4番からリターンした後に撃沈の憂き目に遭った。この危機を乗り切った一部のトップグループと、リフライトした選手達は順調にタスクをこなし始めるが、条件は決して良いとは言えず、6番をとって降りる選手が続出した。この頃になるとグリーンカップの選手もエリアを飛び始め、渋いながらも奮闘する

姿が多く見られた。結局この日はナショナルは高木・西ヶ谷の両選手が尾根越えを果たしたもののゴールには及ばず仲良くトップを分け合った。

最終日も条件は渋めであり、30 Kmのレース to ゴールが行われた。この日は早く出た者が有利な展開でレースを進め、圧倒的な早さでゴールした扇澤選手がトップを飾るも手堅い飛びでまとめた高木選手が総合優勝を飾った。Aクラスも渋い状況で結果は団子状態であった。Bクラスはセットタイム&ターゲットで競われた。

クラブからも春に続いて多くの選手が参加した。グリーンカップAクラスの井上さん、高林さん、塚本隆さんらは、総合6位につける健闘ぶり。ナショナルはと言うと、Team-Cメンバーらが参戦したものの成績は振るわず、地元選手としては扇澤選手が6位に食い込むにとどまった。

今年はこれで大きな大会の予定はないとのことだが、地元選手が大会に参加する姿が目立つようになり、これからますます素晴らしい選手の出現に期待が膨らむのは私だけではないであろう。大会に参加することで、ぜひ自分のフライト技術やフライトスタイルを見つめ直す機会を持っていただきたい！

今後も立山での大会を地元のみなさんの活躍で盛り上げていこうではありませんか！！

らいちょうバレーカップ・グリーンカップ クラブ員選手の結果

・ナショナルクラス

・グリーンカップAクラス

・グリーンカップBクラス

順位	氏名	機体	順位	氏名	機体	順位	氏名	機体
6	扇澤 郁	SECTOR	6	井上 文一	SABER	26	長崎 雅美	ORION
46	斉藤 直行	SECTOR	6	高林小百合	メック96			
50	松田 勲	SPHINX	6	塚本 隆暢	XYON			
52	藤野 光一	GENESIS	28	福原 政秀	SABER			
55	本馬 竜夫	SECTOR						
64	高松 俊夫	SECTOR						
67	佐藤 裕	SABER						





条件不良でクラス2のみの成立となり、クラス1の選手にとっては不完全燃焼で終わった第1回トミーズカップ。第2回は天候不良で結局中止となり、スタッフ・選手ともに今年の第2回トミーズカップにかける意気込みは並々ならぬものがあったのではないだろうか？

そして96年7月28日、その闘いは行われた・・・。今回はこの闘いの模様と、スタッフレポート等を交えて特集する！！

◆参加者39名（クラス1 21名、クラス2 18名）

今回は、クラス1が21名、クラス2では18名の選手がエントリーし、みなそれぞれの想いを胸にテイクオフへ向かって行く。クラス1はパイロンレース、クラス2は水運びレースと競技内容は恒例になった感があるが、どちらも知識・技術が要求される種目だ。水運びレースは昨年からコップをどこに付けても（持っても）良いというルールになったものの、スムーズなテイクオフ・フライング・ランディングが出来なければ水をこぼしてしまう。更にターゲット（砂場）に入れば20%のボーナス得点が与えられるので、上位に食い込むには風を読み、正確なランディングアプローチが出来なければならないのだ。今年も極楽坂テイクオフ中央をクラス2専用テイクオフゾーンとし、2本に及ぶ競技が開始された。今回はスクール生がテイクオフサポートに協力してくれた。また、クラス2のテイクオフディレクターには恵子ちゃんが自ら協力。スクール生（マスターコース）中心のクラス2では完璧に近いサポート体制ではないだろうか？時折やや強めのブローが入る中を、選手達がコップを口に？テイクオフして行く。テイクオフ直後に水をこぼしてしまう者や、ブローを巧く使ってスムーズにテイクオフする選手など様々で、各自の技術の差が実感出来たのではないだろうか？ランディングでもやや強めの風に翻弄されながらもターゲットを決める選手が今まで以上に多く、難しいコンディションの中で健闘したのではないだろうか。

◆グランド一斉スタート レース to ゴール



ブリーフィング！真剣に聞き入る選手

クラス1のタスクは今回初めてレースtoゴール、グランド一斉スタート方式が採用された。この方式のメリットはとにかく最初にゴールした選手が1位という判り易さにある。スタッフも集計し易いというメリットがあるが、一度に多くの機体が同一空域に集中するため選手の技術が要求される。

今回は21名という人数であったため、問題になるような混みかたにはならないと判断し実施に踏み切った。タスクは 1番（パラダイス食堂）－3番－5番（展望台）－3番－5番－3番－5番－1番－3番－ゴンドラランディング（時計台撮影）の20.3 Km。今の機体であれば十分ゴール出来るが、少しは罠が仕掛けられている面白いタスク設定だ。尾根上パイロンが中心なので、初級機でも十分こなせるだろうし、なによりゴールする選手が多数出る可能性があるということで、白熱したレース展開が予想された。

◆パラダイス分岐点

11時ゲートオープンと同時に藤野がテイクオフ。その後本馬選手や優勝を虎視眈々と狙う精鋭達が次々にテイクオフしていく。金山は大方の予想に反してやや渋めのコンディションであり、ここで上げられない選手は大きく出遅れる。藤野、本馬が低い高度で1番へ走ったのに対し、他の選手達は躊躇したのか動きがない。コンベ慣れしている2人を除いては選手それぞれの思惑の高度を稼ぐまで動かない堅い作戦らしい。その間に先行する藤野は金山へ回り込むが予想以上の渋さのために足留め。国体付近で丁寧にリフトを拾い高度維持した本馬が更に高度を稼いで3番へ向かいトップに立つ。この頃セカンド集団を形成することになる斉木、高松、田中らは1番へ走りはじめた。本馬が3番からリターンする頃ようやくサーマルをヒットした藤野は2番手で3番を撮影し本馬を追撃する展開になった。

◆1ミス命取り、藤野独走

トップを走る本馬は致命的なミスを犯す。展望台へ向かわなければならないのに1番に向かってしまったのだ。途中で気付いたが時すでに遅し。展望台へ向かうことはおろか五色にも出られず金山方向に機首をむける羽目に陥った。セカンド集団は1番をとったあと金山周辺で高度を稼ぐ。この頃になるとコンディションも整い、また、後から出た選手も入り乱れて金山は華やかなキャノピーに彩られていた。藤野はここでセカンド集団とすれ違い、前方から向かってくる本馬を展望台リターンと思い込んで見つめていた。これがこの後のレース展開に大きな影響を及ぼした。自分が2位であると思い込んだ藤野は少しでも差を縮めるため、終始ドルフィン飛行でスピードtoフライに切り替えたのだ。猛烈なスピードでアウトアンドリターンをこなし、最後の展望台で事実上セカンド集団を引っ張る本馬を捕らえ、1番へ向かわずに3番へ向かう本馬を見て彼らと1往復差であることを確認する。

高松、斉木、田中らは団子になりながら3番をリターンして翼端を折り、ファイナルグライドに入る藤野を見た。（と思う）

◆コンペティター強し！

クラス1は、結局藤野が余裕の単独ゴール。その10分後本馬がゴールし、折り重なるように高松、斉木がゴールした。その後も田中、佐藤、高井、宮木、井上がゴールを決め、リフライトした高林が執念のゴール。実に10名のゴール者を出したが、田中は写真にタイムが写っておらず距離得点のみにとどまった。

終わってみれば、コンペ慣れしている藤野、本馬、高松が1位～3位となり、強さを発揮した。また高林や清水ら女性パイロットが実力をつけてきたこともあって今後の活躍が期待出来そうだ。

クラス2は、2本とも250cc以上の水を残し、尚且つターゲットを踏んだ早風が優勝を飾った。早風は強めの風を考慮し、普段より高めのアプローチを慣行し見事に2本ともターゲットを決めた。これからの活躍が期待される。



クラス1の入賞者の面々！

後列左から高林、高松、本間、藤野、前列左から斉木
高井、宮木選手！！嬉しそうですね！！



クラス2の入賞者の面々！

左から塩岡、奥村、早風、塚本選手！！

選手に聞く！！（優勝者、レディース）

◆クラス2優勝 早風 慎也 Shinya Hayakaze

風が吹いていたら間近で落ちるのは何となくわかっていたので、普段より高めに入ったら、2本とも上手く行った。とにかくうれしいです！！（酔ってて多くを語ってくれませんでした・・・）

◆クラス2レディース（スクール）塩岡 貴子 Takako Shiooka

口に安全ピンをくわえて、なるべく短くコップを持っていたんです。それで、ランディングでこけたにもかかわらず水を守ったんですよ！2本ともこけたんだけど、そこは女の執念？！で水を守りぬきました。テイクオフは良かったんですがランディングに難ありでした。勝因は何と言っても執念でしょう！！

◆クラス1レディース 高林 小百合 Sayuri Takabayashi

1本目は最低だったんですが、この大会の目標はタスクコンプリートだったのでリフライトしました。リフライトでは吸い上げも入って条件が良すぎたので何も考えずに回ることが出来ました。とにかく、自分の目標であるタスクコンプリートが出来たので良かったです。ただ、1本目のフライトが惜しかったので、これからも少しずつ目標を決めてレベルアップして行きたいと思います。

◆クラス1優勝 藤野 光一 Koichi Fujino

レース to ゴールなので、早く出て早く行こうと思いました。以外に渋かったがパラダイスから十分リターン出来る高度があったので迷わず突っ込みました。それが他の選手との差になったんでしょう。後半は条件も整ったので展望台へ行く時だけ金山で上げて、あとはドルフィン飛行で十分でした。テントはチームで大事に使わせていただきます。

今回でクラブ主催の大会は3回目となる。「立山カップ」、「第1回トミーズカップ」、「第2回トミーズカップ」と、少しずつではあるが歴史を刻んでいると言えるだろう！！

今回は、この大会を支え続けてきたスタッフの皆さんに今大会の感想と、今後の展望を聞いてみた！！

◆ハミングバードPGC会長 大和 隆三 Ryuzou Yamato



第2回トミーズカップは事故や怪我もなく無事に終わることが出来ました。これも皆さんの安全に対する心構えとスタッフの皆さんの努力によるものと感謝しております。

技術的なことを言いますと、やはり「勝負は勝負である」と言うことです。日頃フリーフライトで、ただ上げてさえいれば楽しいと言うのと競技とは違いますから、今度は大会のフライトをしてもらいたいと思います。クラス2について少し述べますと、やはり風の強弱についての読みかたが若干悪い（弱い）のではないかと思います。それなりの高さで進入してくるのですが圧倒的にショートする選手が多い、こちらが「いいな」と思っても、ブレークコントロールが不十分でそのまま風下に流されたりした選手

講評を述べる大和会長 手もありました。ですから、風に対する読みや、ランディングアプローチをしっかりとイメージした練習にもっともっと取り組んで欲しいと思います。クラス1では、同一サーマルでの旋回方向の統一、他のフライヤーとの協調と言う点でも安全と言う観点からも練習する必要があると思います。それから競技である以上、もっと執念深くと言うか、競技の飛びをする必要があると思います。これから県のレベル、北陸のレベル、全国と言うように上のレベルを目指す人が出てくるでしょう。そうなるためにはいつまでも「和気あいあい」ではだめだと思います。ぜひ、競技フライトを念頭に置いて日頃の練習をお願いします。

大会の運営についてですが、準備についてはクラブ大会も3回目ですので非常にスムーズに出来たと自負しておりますが、選手全体をどう動かすのか？と言う点についてはまだまだ不十分であったと言わざるを得ません。リフライトの選手が何人なのか？今何人飛行中なのか？帰着した選手は何人なのか？これぐらいは常時運営側が把握していなければなりません。勿論これには選手の意識も大きく影響します。リフライトするのならば言われなくても本部に一言告げて行くとか、ランディングしたら必ず帰着申告をするとか、そういう心掛けが必要でしょう。帰着申告が自分の安全なフライト、競技のゴールになる訳です。

今後の大会についてですが、参加者全員がゴールドパスを所持している訳ではないので、エリア内でのタスクが中心になるのは仕方ないことなのですが、2番や4番を使用したタスク設定も考えて行きたいと思います。やはり、今回は多くの選手がゴールしてくれたので、レベルアップの意味も含め

て2番を取り入れたタスク設定で次回はずひやってみたいと思います。

次回も皆さんの参加をお願いいたします。

◆競技委員長 斉藤 直行 Naoyuki Saito

タスク設定としては選手全員がゴール出来るように設定したのですが、結果的には全員とはいかなくても多くの選手がゴールしてくれたので良かったのではないかと考えています。今回は2番や4番を入れたタスクと言う話もありますが、条件や皆さんのレベル、グライダーを考慮して多くの選手がゴール出来るタスク設定を基本にして行きたいと思います。今回はとにかくあらゆる条件がいい方向に動いてくれたので、完璧に近いタスクを皆さんに提供出来たと思っています。次回もぜひ頑張ってください。

◆スクール代表 関沢 孝之 Takayuki Sekizawa

今日は藤野君の独走で残念でしたけど、天候は思ったほど雲の発達がなくて無事に全工程が終わって良かったと思います。クラス2のランディングは大変スムーズでした。西風が強かったのでショートする場面が多かったかな？と言う印象ですが、基本的にセーフティーなランディングばかりでした。

選手全体のレベルについてですが、レベルは向上しているんでしょうが、なかなか表面にそれが表れないのではないのでしょうか？最近怪我也多いことですし……。実際僕等にしても調子の良いときと悪いときがありますので、飛んでる皆さんも自覚して、調子の悪いときは自重して飛んでもらえればいいな、と思っています。

最後にこの大会の在り方についてですが、基本的にこの大会をバネにして、らいちょうバレーカップや、ポイント戦に参加する選手が出てくればいいと思いますし、選手育成の一翼を担えればいいのではないかと思います。

とにかく、安全に・楽しくフライトして下さい。

◆実行委員長 松田 勲 Isao Matsuda

今回は怪我人・ツリラン等もなく無事終えられたことで非常に良かったと思います。ただ、前回と比較すると盛り上がりには欠けたかな？とも感じられます。

選手のレベルについては、徐々にトップの何人かに続く人達が出てきたかな？との印象を持っています。あとは、女性の選手がもう少し出てきてくれればいいのに！と思っています。

無難に終わった訳ですが、今回のタスク設定はこれで良かったのではないかと思います。余りレベル差はつかなかったと言う印象も拭えないのは事実ですが、多くの人がゴール出来たことは非常に嬉しいことですし、ゴール出来なかった人も次回はゴール出来るように日頃の練習に励んでもらいたいと思います。

◆クラブ副会長 寺内 真英 Shinei Terauchi

今回の大会は非常に良い大会であったと思っています。これだけ多くのクラブ員がゴール出来た訳ですから、本当に良いセッティングをしてもらって良かったと思っています。

最近は機体性能が飛躍的に向上したこともあり、ランディングの重要性をもっともっと認識していただきたいと思います。

今後も今回のような大会を継続していただいて、もっともっと多くの方に参加していただき、より楽しいものにしていけたらいいと思っています。

大会結果

順位	E.No.	選手氏名	S.TIME	G.TIME	F.TIME	D(Km)	S.P	D.P	得点	
1	19	藤野 光一	11:00	12:12	1:12	20.3	350.00	650.00	1000.00	
2	8	本馬 竜夫	11:00	12:22	1:22	20.3	307.32	650.00	957.32	
3	10	高松 俊夫	11:00	12:27	1:27	20.3	289.66	650.00	939.66	
4	15	斉木 秀司	11:00	12:27	1:27	20.3	289.66	650.00	889.66	危険行為-50
5	9	高井 博昭	11:00	12:59	1:59	20.3	211.76	650.00	861.76	
6	12	宮木 正治	11:00	13:00	2:00	20.3	210.00	650.00	860.00	
7	3	井上 文一	11:00	13:08	2:08	20.3	196.88	650.00	846.88	
8	2	佐藤 裕	11:00	12:56	1:56	20.3	217.24	650.00	817.24	危険行為-50
9	7	高林 小百合	11:00	14:23	3:23	20.3	124.14	650.00	774.14	
10	17	田中 一浩	11:00			20.3	0.00	650.00	650.00	タイムなし
11	1	中田 忍	11:00			12.5	0.00	400.25	400.25	
11	6	塚本 隆暢	11:00			12.5	0.00	400.25	400.25	
13	11	清水 昌代	11:00			10.1	0.00	323.40	323.40	パノインなし
14	18	河合 敏明	11:00			7.7	0.00	246.55	246.55	現像ミス
15	4	松越 順一	11:00			0.0	0.00	0.00	0.00	現像ミス
15	5	福原 政秀	11:00			0.0	0.00	0.00	0.00	フィルムなし
15	13	出村 康子	11:00			0.0	0.00	0.00	0.00	フィルムなし
15	14	吉野 一至	11:00			0.0	0.00	0.00	0.00	フィルムなし
15	16	島倉 浩一郎	11:00			0.0	0.00	0.00	0.00	フィルムなし
15	20	長谷川 正巳	11:00			0.0	0.00	0.00	0.00	フィルムなし
15	21	金田 功男	11:00			0.0	0.00	0.00	0.00	フィルムなし

順位	E.No.	選手氏名	水残量1	ターゲット1	得点1	水残量2	ターゲット2	得点2	合計	大会得点
1	4	早風 慎也	259.8	1	623.5	253.9	1	609.4	1232.9	1000.00
2	1	塚本 利明	243.6		487.2	242.7		485.4	972.6	788.88
3	6	奥村 修峰	235.1		470.2	249.3		498.6	968.8	785.80
4	7	米沢 繁	209.3		418.6	237.5		475.0	893.6	724.81
5	10	松井 浩一	175.2		350.4	186.2	1	446.9	797.3	646.68
6	15	金田 紀久子	141.1	1	338.6	209.2		418.4	757.0	614.04
7	5	岡崎 洋司	166.5		333.0	167.3	1	401.5	734.5	595.78
8	11	塩岡 貴子	245.9		491.8	119.7		239.4	731.2	593.08
9	8	柳原 隆	61.7	1	148.1	153.1		306.2	454.3	368.47
10	3	五十嵐 忠	79.6	1	191.0	98.3	1	235.9	427.0	346.31
11	16	広瀬 良彦	11.2		22.4	189.3		378.6	401.0	325.25
12	9	浅川 義丈	138.1		276.2	32.9	1	79.0	355.2	288.07
13	14	上木 一郎	117.7		235.4	42.5	1	102.0	337.4	273.67
14	17	谷井 和之	73.5		147.0	67.0		134.0	281.0	227.92
15	2	渡辺 明	109.3		218.6	11.6		23.2	241.8	196.13
16	18	藤井 勉	11.2		22.4	87.9		175.8	198.2	160.76
17	13	土田 博	40.8		81.6	11.0		22.0	103.6	84.03
18	12	吉井 裕	11.2		22.4	36.6		73.2	95.6	77.54



●大概、天狗になってる奴が怪我をする！！

TN…今回はクラブの大御所、寺内さんにいろいろお話を伺いたと思います。

寺内…私もね、明日もしかしたら怪我するかもしれないと思って飛んでおりますもんで、大きな事は言えないんですけど、この遊びは足が浮きますもんで、特に天狗にならないようにして飛んでおります。こればかりではないんですが、私はスキーもやってまして、大概天狗になってる奴が怪我しますもんで、ホントに自分の技術に合った飛び方が出来ることが一番ではないかと思います。特に機体が良くなりましたもんで、機体の過信というか、機体任せというか、そんな点が多くなっているように思いますね。

TN…寺内さんと言えばこのエリアが出来て以来、いろんな機体を乗り次ぎながらこのエリアの変遷を常に見てこられた人、と言う印象を持っているんですが、このエリアの移り変わりについてはどのように感じていらっしゃるのでしょうか？

寺内…私は幸せというか、その時代時代の最先端と言われる機体に乗せてもらって今まできてるんですけど、順番に乗ってきましたもんで、少しずつ自分でも上達してきたんじゃないかなーと思ってます。突然、まあ、いい機体に乗れる時代になったような気がしてしょうがない訳です。

TN…最近の初級機でもよく飛びますからね！

●今は上達しなくてもいい機体に乗れる時代になっている！

寺内…ええ、私、それ、怖いことだなと思ってます。順番に私は乗ってきましたから。えーっ、始めてこれで8機目ですか（笑）、こう言うと贅沢に思われますけど、まあこの道楽が好きなもんで順番に乗ってきましたもんで、まあ少しずつ自分の技術と機体に対して上達してきたんじゃないかなーと思っています。上達しない先に今はいい機体に乗れるような時代になっているんじゃないかなーと思って怖いなーと思うことはあります。

TN…寺内さんがそう言うと非常に重みがありますね。寺内さんのフライトに関して少し伺います。寺内さんはこのエリアの中・外ともに熟知してらっしゃると思うんですが、そういった中で、このエリアの良さや怖さというものも熟知してらっしゃると思うんですが、その辺りについてはいかがでしょう？

●面白いエリアは怖いエリア

寺内…良さはね、私は他のエリア行っていないんで判りませんが、このエリアが一番いいところは、方々でサーマルが発生したりして物凄く遊べるエリアだなと思っています。私は話でしか聞いていないんですけど、例えばその、一箇所ではサーマルが発生しないようなエリアもあると聞きます。ここはもう方々でサーマルが発生して十分遊べるエリアだ、その代わり、方々で危険性も伴ってきてるエリアだなと思っています。その点が面白いエリアであるし、怖いエリアであると思います。

TN…やはりそういう良さと危険性とは表裏一体であると…？

寺内…ええ、あると僕は思ってます。

●絶対に自分が落ちないだけの確保をするんです

TN…それから、寺内さんを語る上で絶対外せない事にツリーラン回収があるんですが、今後の救助体制やみんなですらどうしていかなければならないかという点も含めて、ご意見をお聞かせ下さい。

寺内…あの一、私、元鳶（鳶職）なもんで、一番思うんですけど、木の上へ行ったら間違いなく自分が落ちないだけの確保をするんです。自分が動ける範囲のロープで、例えばもし落ちたって下まで落ちない確保して、作業にあたるんですけど、それだけ作業範囲が広がりますから…。それで次の木に移ったりいろんな作業にあたります。とにかく絶対に地面まで落ちない確保をします。元鳶ですから人より動きは早いと思います。自分の確保を出来ない人は自分に自信がないと言えます。だから動けなくなるんです。自分が落ちたって地面まで落ちないと言う事が判っていればそういう確保をすれば作業も早くなりますし自信につながります。絶対に木の一番良い所に基点をとって自分の行動範囲を確保しています。

●降りてきてもらったんじゃ何にもなりません！！

TN…今のは回収や救助に行かれた時のアドバイスだと思いますが、今度は木につってしまった場合、こうして欲しいとか、注意してもらいたい点はありますか？

寺内…自分で回収出来ない場合は動いてもらわない方が幸せです。自分で回収出来る人は、さっき言ったように絶対落ちない確保をして、回収作業に入ってもらえばいいわけですが、回収出来ないくせに体をハーネスから外して木から降りてくる、と言うのは最低です。と言うことは、我々が回収に行った時に間違いなく枝のないところをあらゆる手段を講じて登っていかなければならん！それだったら上にいてもらって細いロープを下げてもらって、太いロープを上げてもらって、例えば私が回収に行った場合はそのロープで簡単に登れるんです。その方が作業も早いし、私が楽な訳です。

TN…やはり、動く自信がなければ安全確保をとって救助を待つと…？

寺内…ええ、それが基本だと思います。その方が絶対に危険性が少ないですし、回収する者としても助かりますし楽ですね。降りてきてもらったんじゃ何にもなりません！

●骨折したら僕の歳になると1年棒に振りますから…

TN…寺内さんの今後のフラインクの展望というか、目標みたいなものがあればお聞かせ下さい。

寺内…私は、これは中毒みたいなもんで、まあ、出来るだけ、いくつになっても浮いていられるためには怪我だけは…。例えば骨折したら僕の歳になると1年棒に振りますから（笑）。そう思って飛んでおります。まあでも、大会に出るとかこれもスポーツですから、みんなして挑戦して少しでも上を狙ってくれることは物凄く嬉しいことだと私は思います。私も狙いたいんですけど来年還

暦なもんで、もう、自分で浮いていることだけで終わりたいと思っています。それから長く遊ぶためには上手になりたいという意欲はあります。

TN…やはり向上心が大切だと？

寺内…ええ、それは持っています。上手になるって事が安全に飛ぶことだと思います。

TN…技術イコール安全。

寺内…ええ、死にたくないもんですからホントに上手になりたいと思ってます。上手になりさえすれば鳶（トンビ）みたいになれば絶対に死なないから（笑）。トンビが落ちて死んだのを見てないから。

TN…やはりそういった心掛けが絶対に必要ですね。技術的な（知識）バックボーンがあっこそ、真の安全を語ることが出来るんです。今回寺内さんにこれだけお話を伺って本当に良かったと思います。これからもクラブのよき指導者として、またエリアでの素敵なPILOTとして活躍を期待します。今日はどうもありがとうございました。



@プロフィール@

氏名	: 寺内 真英 Shinei Terauchi
年齢	: 来年還暦を迎える
飛行時間	: 年間100時間くらい…？！
使用機体	: EDEL SECTOR
目標	: トンビみたいになりたい！！

Team-C の



大会日記



Report:T.Honma

みなさんこんにちは！4月にハミングバードに入会しました本馬です。スクール生時代には江上君、高井さん、高林さん、モウ（阪本）君、などなど大勢の仲間に出会うことが出来、まさしくめくるめく？！ようなパラ人生を送って来ました。

今回は、私ごときにペンを走らせる機会を与えて頂き感謝しております。この機会を有効に活用すべく私なりに前向きに検討いたしました結果、「大会」について語らせて頂こうと思います。かのパラワールド誌に執筆された関沢さんや恵子ちゃんを見習って（パラワールドの”インストラクターリレーエッセイ”参照）、関沢さん恵子ちゃん風に書いて行こうと思います。

その1 きっかけ

「今思えばベーシックの頃からマインドコントロールが始まっていた？！」

それはベーシック生の時、藤野さんに一声掛けられる事から始まり、諸先輩方のアドバイスや、お・だ・てにより、その気になりやすい私は藤野さん率いるTeam-Cの一員（当時はまだコンペチームと呼ばれていた）として行動することとなった…。今思えばベーシックの頃からマインドコントロールが始まっていたのでは？！

その2 楽しいこと

「幾つもの尾根や谷を越えて行くフライトは想像もつかない！！」

私はコンペを始めてからエアパークCoo、尾神岳、高山スカイパークと、いろいろなエリアで飛ぶ機会に恵まれました。特に大会では普段は到底行くことの出来ない所も飛ぶことが出来（立山で言えば早月方面、行ってないけど…）これが結構どころか相当楽しい！！特に高山では、Oパイロン（平野部にある健康ランドみたいなところ）を取りに行った時、尾根を越えて谷を抜け、また尾根を越え、幾つもの尾根や谷を越えて行くフライトは今までは想像もつかない程のBigフライトであり、また高山のエリアの広大さに驚いたり、非常に貴重な経験でした。是非また高山で飛びたいと思っています…。

その3 テイクオフ

「ああ、山野行きたい?!」

私は本来の”クロスハンド”と言う技の意図するところを大会を通じて理解した。立山は風が弱い!!そんな中、ちょうど良い風を選んでクロスでテイクオフしていい気になっていた私であるが、本当は強風でもテイクオフ出来るのがクロスでありクロスの身上とするところなのです。

高山のテイクオフでは時折8m/s近くの風が吹く中大会は始まりゲートがオープンされました。勿論、そんな風は初めてでビビりまくっていた私ですが、平静を装いながら立ち上げしつつも案の定スタ沈の雨嵐?トホホ…。

その時私の耳の奥から選挙カーの名前の連呼の如く聞こえた言葉が、「ああ、山野行きたい!!」?



テイクオフは基本中の基本!!

その4 ランディング

「そこは立山の砂場を一回り大きくしたくらいの広さしかなかった!!」

みなさんは意識して砂場を狙ってランディングしてますか?大会ではその大切さを痛感します。実は今まで出た大会全てでアウトランディングしているのですが、尾神の時は難儀しました。低いながらもなんとか距離を延ばしていたのですが、「もうダメだ!」と思って下を見ると林の下に道は見えますのですが脇に高い木があってとても降ろせそうもありませんでした。あたりを見渡しているとなんとか降ろせそうな空き地が目に入り込んで来ました。辛い高度処理でしたがなんとか降ろすことが出来ました。降りてみると、そこは立山の砂場を一回り大きくしたくらいの広さしかありませんでした…。

その5 ま・ぼ・ろ・しのパイロン

「男としてとっておきたいパイロンだった!!」

高山スカイパークでテイクオフへ車で向かう時でした。途中、観光バスが道路脇に駐車しており、その横にはバスガイドさんがいるのが見えました。(年齢は20代前半位との意見で車内は一致した?)制服姿で正面(道路方向、つまり道路に対して直角に)を向いてしゃがんでいたのだが、車内から見るとちょっと気になる位置だった?(ちなみにTeam-Cメンバーは制服にうるさい!)そして、ある角度に車がさしかかった時…。「今の見た?」。運転していたI氏が口を開きました。「今のもパイロンなんやで!……。その名もHパイロン!」車内爆笑!!ちなみに私が見た角度ではセクターにはいってなかったらしく、まさしく幻のパイロンになってしまった。やはり経験の差がここでも出たか?男としてとっておきたいパイロンだった…。

最後に…

下手な文章にお付き合い頂きましてありがとうございました。今後もTeam-Cとして大会に参加してゆくつもりです。これまでの成績を見ると、正直大会なんか向いてないんじゃないか?って思うこ

ともありましたが読んで頂いた通り、大会では今まで見えなかった自分が見えたりして学ぶ所が多いのです。

最後に、みなさんに声を大にして言いたいのは

「みんなで大会にでようよ！！」

Information

◆アンケートのお願い！

例年の Gondra 運休についてはスクールサイドでも要望を企業局等に伝えていますが、なかなか受け入れてもらえません。企業局の赤字経営で問題を問いただされているこの機会に皆様のご意見、ご要望をアンケート調査し、企業局や Gondra 事務所に提出し、少しでも我々フライヤーもしくは一般の声を聞き入れてもらえればと考えています。何卒ご協力をお願いいたします。

なお、アンケート用紙はまとめてそのまま提出します。Gondra 運休だけでなく、スキーシーズンも含めて総合的なお答えをお願いいたします。はがきの返送はお早めに！！

◆大会について

例年、9月・10月の連休は大会が開催されていましたが、今年は9月22日（日）の県連盟の大会のみです。存分にフライトを楽しんで下さい！！

◆ツアーについて

10月14日からの Gondra 運休以降、他のエリアへツアーフライトされる方も多いと思います。その際はツアー計画書をスクールまで提出して下さい。エリアルールを守り、ケガのないよう気を付けてください。「せっかく来たのだから…」と無理をせず、セーフティーラインを越えないように注意して下さい。

◆求む！あなたの貴重な体験レポート！！

最近事故やケガの話をよく聞きます。皆さんは常日頃から安全フライトを心がけておられることと思います。しかし、事故はいつ、どのような状況で発生するのかはわかりません！また、起きてしまった事故であってもその状況や原因を分析・究明することで、それ以降の事故防止に役立つ貴重なデータとなります。会報編集部では、「ヒヤッとしたあの瞬間！ヤバかったあの体験！」と題して皆さんのフライトにまつわる体験レポートを募集します。これは、単に冷やかしの記事ではなく、どうしてそうなったのか？そうならずにすまなかったのか？こんな事が現実にかかる！と言ったことを紹介することで、安全意識を更に高めてもらうことを目的としています。実名が嫌ならば匿名でOK。秘密は厳守致します。なお、レポートには

1. その時のあなたの技量（技能証、経験年数、飛行時間など）
2. 気象条件
3. 機体（初級機、中級機、上級機、コンペ機、スポーツグライダーなど）
4. 具体的な状況
5. そうなったと思われる原因（あなたが思う原因を記入）

を書いて下さい。編集部ではこれらの内容について議論し、その内容とともに掲載します。

（議論するメンバーはスクールインストラクターや選手、一般フライヤー）

皆さんのレポートをお待ちしています。

編集後記 96 Vol. 2

盛況だった第2回トミーズカップ。おかげさまで優勝することができました。コンペのシーズンはまだまだ続きますが、自分のフライトが出来るように頑張りたいと思います。

この夏、あの名機「トリエール」に乗ることができました。かつては「選ばれた者」のみが乗ることの出来る機体だと聞いていたので、一度選ばれた者の気分を味わいたくて御福さんに頼んで乗せてもらいました。やはり、最近の機体に慣れているせいか翼がふにゃふにゃで頼りなく感じられました。でも、腐ってもトリエールって感じですか…。

最近ケガが多いように思います。楽しいはずの趣味もケガや事故で「こんなハズでは…」って事にもなりかねません。皆さん注意して下さいね！
(Pikaichi)

ただ今一身上の都合により、お休みを頂いております。次号で活躍の予定！！

(もう)

●話題の提供・ご意見・原稿の投稿は…

FAX (0762) 40-6692 藤野 光一宛
(0764) 81-1551 JMB立山パラグライダースクール内
ハミングバードPGC事務局広報宛

ファイルで投稿希望の方は…

3.5インチFD(1.2MBまたは1.44MBフォーマット)にTXT形式で保存された
ファイルを事務局へお持ち下さい！！

電子メールで投稿希望の方は…(インターネット、BBS経由)

以下のアドレスへメールして下さい。

QZI01576@niftyserve.or.jp 藤野 光一宛
mou@ecs.toyama-u.ac.jp 阪本 猛宛

TATEYAMA NOTAM

タテヤマノータム：第2号 1996年9月20日発行

■編集発行人
■発行所
■事務局

藤野 光一、阪本 猛

ハミングバードPGC 広報委員会会報編集部

〒930-14

上新川郡大山町本宮らいちょうバレースキー場 レストランふじ内

JMB立山パラグライダースクール ハミングバードPGC事務局